

新規・継続等	新規	分野	補完的な道路の整備		事業番号	86	事業名	県単道路改築						
市町村名	青木村		ふりがな 箇所名	(主)丸子信州新線		事業年度 (完了年度は見込み)	釜房～豆石峠		H23年度～		H27年度			
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路拡幅工 L=440m W=4.0(5.0)m						H22年度末事業進捗率	0%					
	H23年度以降実施内容	同上						本工事費等ベース	0%					
	H23年度実施内容	道路拡幅工L=100m						用地補償費ベース	0%					
	事業費計(千円)	全体事業費		H21年度まで		H22年度		H23年度		H23年度以降残				
	財源内訳	国庫支出金	80,000		0		0		10,000		80,000			
	その他													
	県債	72,000		0		0		9,000		72,000				
	一般財源	8,000		0		0		1,000		8,000				
箇所評価	観点	評価項目・指標等				評価				部		政策評価課		
						ランク	評点	ランク	評点					
	必要性 (30)	計画交通量	4,000台/日以上		1,500台以上～4,000台/日未満		1,500台未満		B	0	B	0		
		代替道路	唯一の道路である		代替となる道路がある					5		5		
		ネットワーク (道路網)	バス路線である		駅やICなどに通じるまたは役場と交通結節点や支所などを結ぶ路線		A及びBに該当しない			3		3		
			ボトルネック箇所		ボトルネック箇所でない					4		4		
		観光地に通じる道路		観光地に通じる道路ではない				2		2				
		各事業特有の必要性(安全の確保)		4.0m未満又は30m未満又は8%以上(幅員、半径、勾配)		4.0m以上5.5m未満(幅員)		5.5m以上(幅員)		6		6		
		歩道未整備区間に歩道を設置		歩道はあるが不十分であるものを再整備		歩道整備無し				0		0		
		他事業との関連		河川改修、新幹線、高速道などの事業に関連して実施						0		0		
	小計								20	20				
	重要性 (10)	設計上の環境配慮	環境配慮がされ確実性が高い		環境配慮がされているが確実性が低い		環境配慮をしていない		A	5	A	5		
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路、振興山村、積雪、過疎、地震防災対策強化に位置づけ(2個以上)		緊急輸送路、振興山村、積雪、過疎、地震防災対策強化に位置づけ(1個以上)		特別な位置づけはない			3		3		
		小計								8		8		
	効率性 (20)	B/C(費用対効果)	B/C 1.5以上		B/C 1.0～1.5未満		B/C 1.0未満		A	3	A	3		
		事業効果の早期発現	事業年数 3年以内		事業年数 4年～5年以内		事業年数 6年以上			5		5		
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。		部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。		コスト縮減はしていない			7		7		
		小計								15		15		
	緊急性 (20)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる		交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる		交通事故や落石等の危険がない		A	10	A	10		
		各事業特有の緊急性(医療・福祉・教育)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)		医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)		医療・福祉の連携に係らない道路			10		10		
小計								20		20				
計画熟度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い		市町村からの要望		特に要望がない		B	6	B	6			
	事業情報の共有	関係者以外に広く周知		関係者中心に周知		特に周知していない			3		3			
	住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加		住民や市町村の意見を計画策定に反映		特に住民意見は反映していない			4		4			
	小計								13		13			
費用対効果(B/C)		1.3		評価の合計				A	76	A	76			
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は、麻績インターから鹿教湯温泉を連絡する道路であるが、現道は幅員狭小で線形が悪く、自動車のすれ違いが困難で安全に支障をきたしている状況である。青木村から鹿教湯病院への連絡路でもあることから、地域住民からの要望も強く、通過交通の安全確保のため早期事業着手が望まれている。												
	地域からの要望経緯	H18年から毎年、青木村役場を通して強い要望がある。また、起点側の丸子地域からの要望も寄せられている。												
	事業説明等の経緯	起点側の丸子地域では、平成22年6月に事業を説明を実施している。												
	環境・景観への配慮項目	構造物ではなく、土羽構造による緑化を図り環境へ配慮。また極力、現道を利用するルートを検討したい。												
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。												
特記事項	町役場と連携し、住民の意見を聞きながら計画策定していきたい。													
地域の合意形成	全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他					
部意見	生活道路としての安全確保を図るとともに、観光地へのアクセス機能の向上による地域産業の活性化に寄与する事業であったため、H23年度から事業化をしたい。				政策評価課	緊急性が高く、重要性も認められる。								